

iシェアーズ オートメーション & ロボット ETF

当ETFの目的

iシェアーズ オートメーション & ロボット ETFは、STOXX グローバルオートメーション アンド ロボティクス インデックス（TTM、円換算）への連動を目指す上場投資信託（ETF）です。同インデックスは、「製造ロボティクス」、「自動運転車」、「3Dプリンティング」、「人工知能」をはじめとする40以上のロボティクス及びオートメーション分野で技術開発を行なっている企業の中から、これらの事業の収益が企業収益全体の50%以上を占める国内外の企業によって構成されます。

当ETFの特色

1. 今後、市場の拡大が期待される、ロボティクス関連産業に投資する国内初・国内唯一のETF¹です。
2. ロボティクス関連事業を展開する世界の主要な企業に、低コスト²で分散投資をすることが可能です。
3. 社会的・経済的な構造変化を背景に継続的な市場拡大が予想されるロボティクス関連産業は、中長期の資産形成にご活用いただける投資ツールと言えるでしょう。

当ETFの基本情報（2020年12月30日時点）

銘柄名	iシェアーズ オートメーション & ロボット ETF
東証銘柄コード	2522
連動を目指す指数	STOXX グローバルオートメーション アンド ロボティクス インデックス（TTM、円換算）
上場市場	東京証券取引所
上場日	2018年11月15日
取引所における売買単位	1口
信託報酬	0.528%（税抜0.48%）程度 ³
分配頻度	年2回 ⁴
決算日	2月9日および8月9日

当ETFの詳細（2020年12月30日時点）

基準価額 （1口当たりの純資産総額）	3,274.30円
純資産総額	580百万円
組入れ銘柄数	127

1. 出所：モーニングスターのウェブサイトをもとにブラックロック調べ、2021年1月4日現在
2. 運用管理費用（信託報酬）を指します。
3. その他信託財産にかかる費用や株式売買にかかる費用が別途かかります。詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご確認ください。
4. ファンドの分配方針に則って分配金が決定される頻度を表します。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

ETF投資に関する手数料・リスク等につきましては本資料巻末の留意事項を必ずお読み下さい。

拡大する世界のロボティクス関連産業

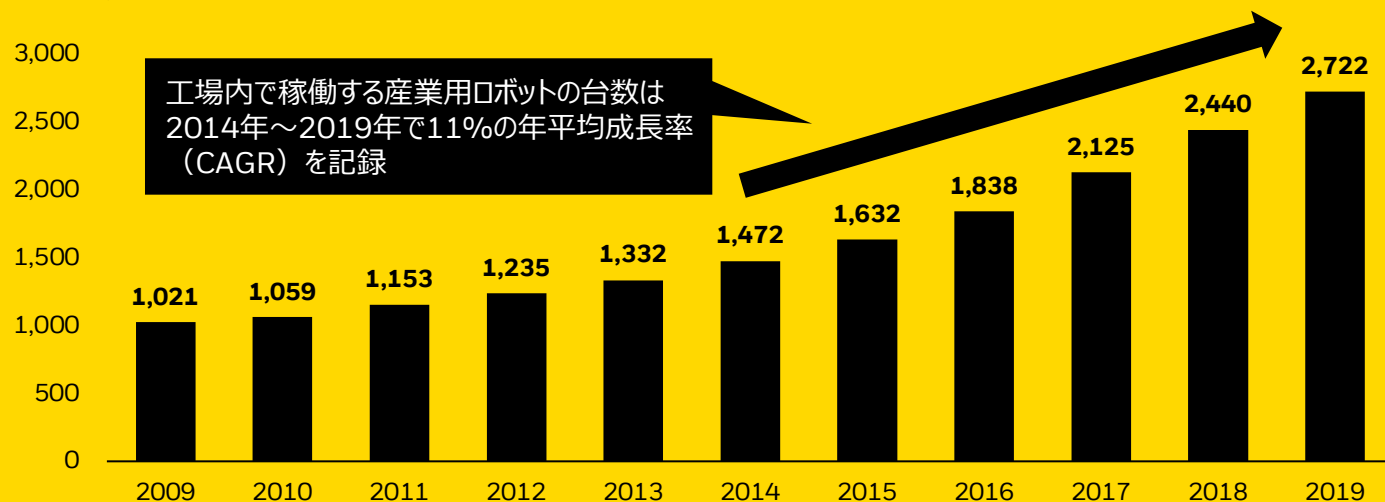
ロボティクス関連産業は、少子高齢化による労働力不足や新興国諸国の経済発展に伴う労働賃金の上昇などを背景に需要が拡大しています。また、ロボット開発の技術革新と開発コストの低下もロボティクス関連産業の拡大を後押ししています。

ロボットの導入は多大な資金を必要とすることから、従来は大企業を中心に進んできました。しかし、開発コストの低下が進むことで、今後は中小企業においてもロボットの導入が進むことが予想されています。⁵

産業用ロボットの導入は世界的に進んでいる

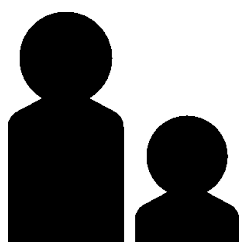
工場内で稼働する産業用ロボットの台数（世界全体）：2009年～2019年

（単位：1,000台）

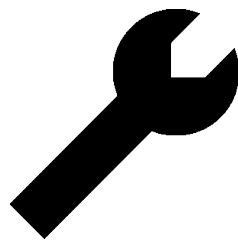


出所：国際ロボット連盟（IFR）、World Robotics Report 2020をもとにブラックロック作成

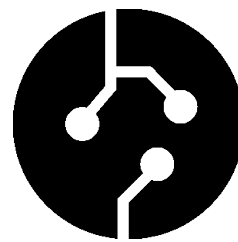
ロボティクス関連産業の成長を後押しする主な3つの要因



1. 少子高齢化による労働力不足



2. 主要な製造業国の労働賃金の上昇



3. ロボット開発の技術革新と開発コストの低下

67%

マッキンゼーが2020年6月に企業経営層800人を対象に実施した調査で、COVID-19により、オートメーションおよびAIの導入を加速したと回答した企業の割合

出所：マッキンゼー、'What 800 executives envision for the postpandemic workforce', Sep 2020 —

5. 出所：国際ロボット連盟、Robots and the Workplace of the Future, March 2018

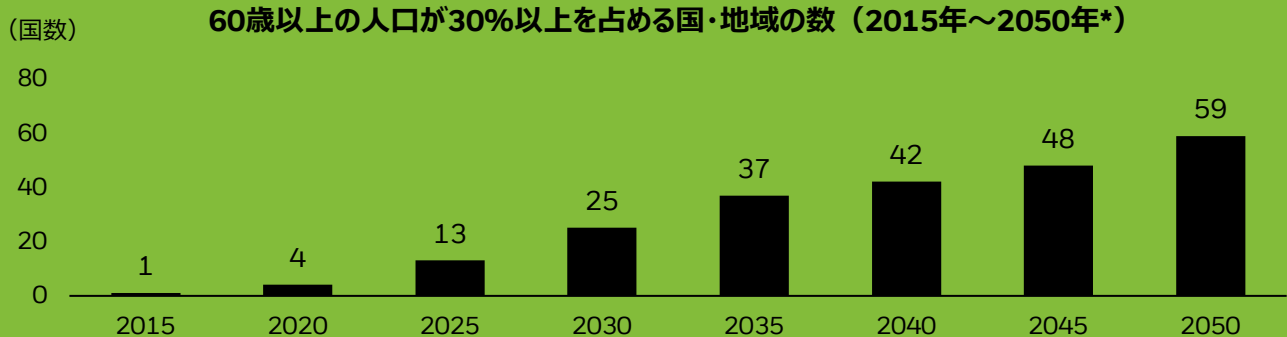
ETF投資に関する手数料・リスク等につきましては本資料巻末の留意事項を必ずお読み下さい。

世界のロボティクス関連産業を取り巻く環境



少子高齢化による労働力不足

2015年時点では、人口の30%以上が60歳以上の国・地域は世界で日本のみでした。しかし、その数は2050年には、59カ国に達すると予想されています。

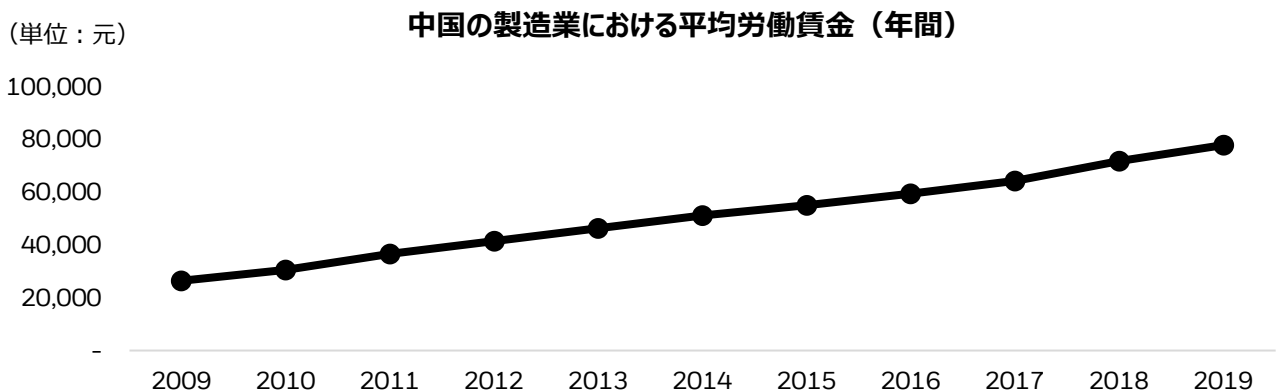


出所：国際連合、World Population Prospects 2019をもとにブラックロック作成。*2020年以降は予想値



主要な製造業国の労働賃金の上昇

世界の製造業の中心である中国⁶における平均労働賃金は、2009年から2019年の間で約2.9倍に増加しました。



出所：TRADINGECONOMICS.COM、中国統計年鑑、2019年12月



ロボット開発の技術革新と開発コストの低下

産業用ロボットの開発コストは、年々低下傾向にあります。例えば、米国における一般的なスポット溶接ロボットの総コストは、2005年~2014年で約27%低下しており、2025年までにさらに23%低下すると予想されています。⁷ 2015年時点での一般的なロボットの1時間当りのコストは28米ドルですが、2020年には20米ドルまで低下することが予想されています。⁷



6. 出所：House of Commons LIBRARY, *Manufacturing: statistics and policy* by Chris Rhodes, 2020年1月

7. 出所：ボストン・コンサルティング・グループ、*How Robots Will Redefine Competitiveness*、2015年9月。スポット溶接ロボットの総コストは、米国の自動車産業におけるスポット溶接ロボットの購入から実装までの総コスト、2014年時点。物価上昇率は反映していません。

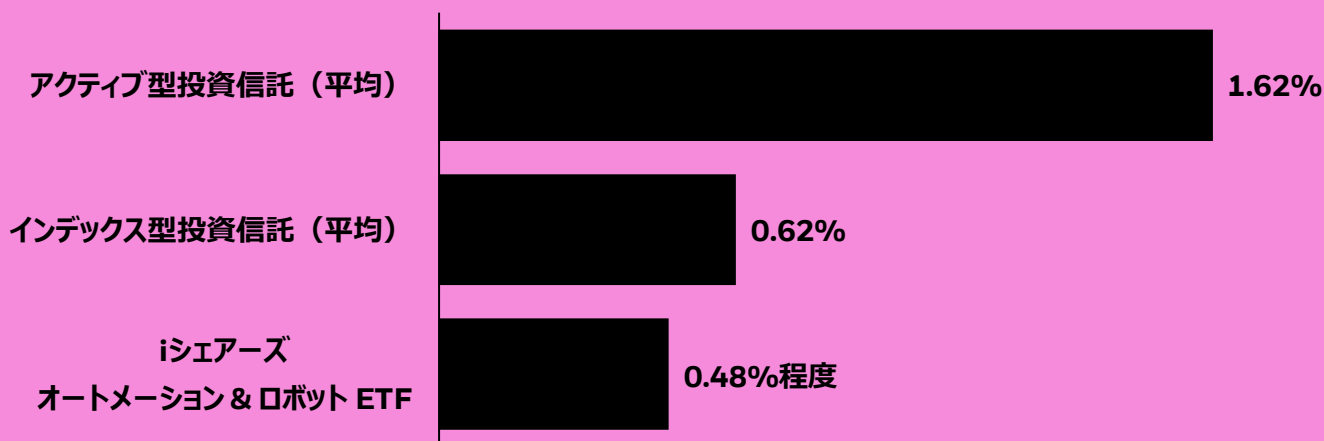
iシェアーズ オートメーション & ロボットETFについて

1. ロボティクス関連産業に投資する**国内初・唯一**のETFです。⁸

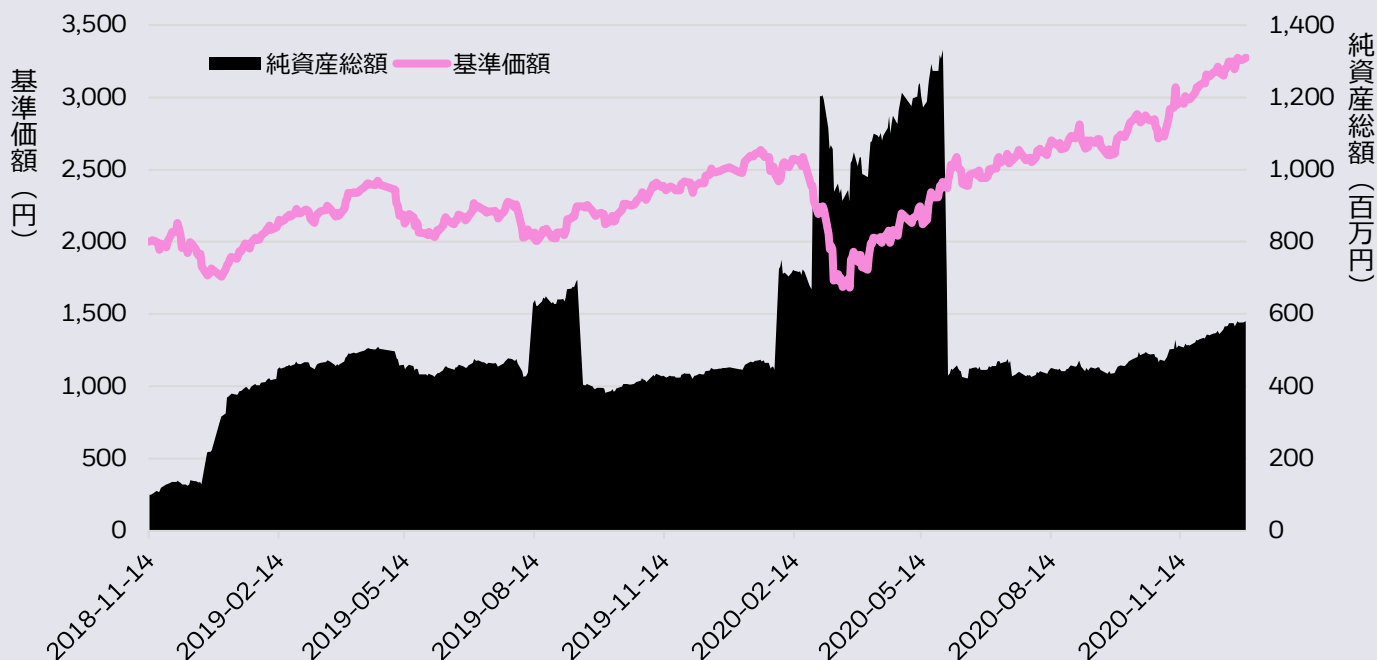
2. 信託報酬は、**0.48%** 程度
ロボティクス関連株式ファンドの中で最低水準です。

国内初！

ロボティクス関連株式ファンドの信託報酬の比較⁹



運用実績の推移 (2018年11月14日～2020年12月30日)



出所：ブラックロック

上記は、今後の当ファンドのパフォーマンスを示唆するものではありません。

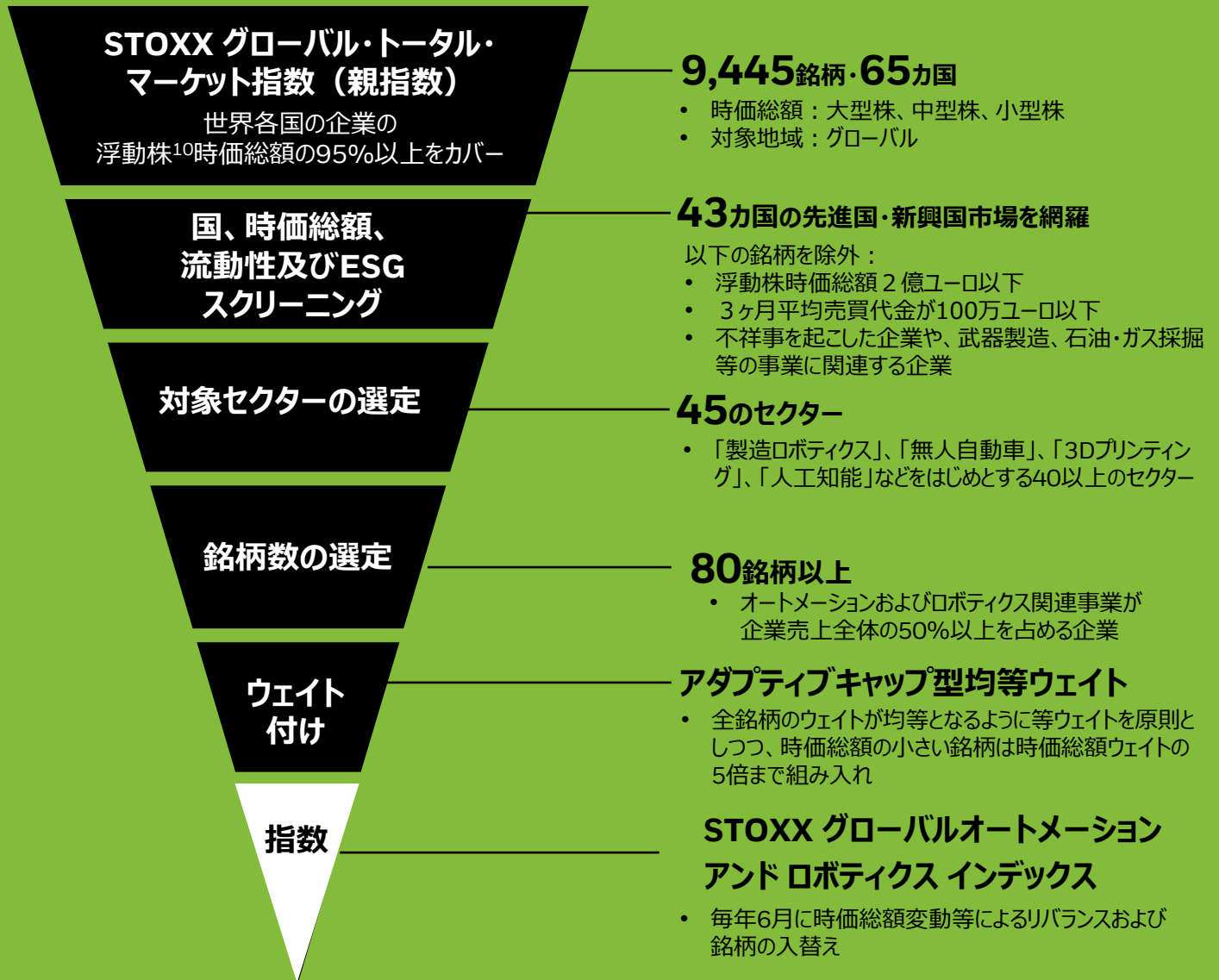
8. 出所：モーニングスターのウェブサイトをもとにブラックロック調べ、2021年1月4日現在

9. 商品ユニバース：モーニングスターのHPIに掲載されている投資信託及びETFの中でロボット関連技術を投資テーマとする18商品（ラップ口座向けを除く）。信託報酬は、アクティブ型（14商品）、インデックス型（3商品）、ETF（1商品）の各カテゴリーの信託報酬（税抜）の平均値。2021年1月5日時点で公表されている各投資信託の目論見書をもとにブラックロック作成。

ETF投資に関する手数料・リスク等につきましては本資料巻末の留意事項を必ずお読み下さい。

連動を目指す指数について

STOXX グローバルオートメーション アンド ロボティクス インデックスは、9,000以上の国内外の企業を母集団とし、その中から「製造ロボティクス」、「自動運転車」、「3Dプリンティング」、「人工知能」をはじめとする40以上のロボティクス及びオートメーション分野で技術開発を行っている企業の中から、これらの事業の収益が企業収益全体の50%以上を占める国内外の企業によって構成されます。なお、Sustainalytics社によるESG基準のスクリーニングを導入しており、環境、社会、ガバナンスに悪影響を与えるインシデントへの企業の関与は銘柄選定の際、スクリーニングされます。



テーマ型ETFの誕生について

従来、テーマ型ファンドは特定のテーマに特化する企業を特定したり、調査したりすることの難しさから、アクティブ型ファンドを通じた投資が一般的でした。しかし、技術革新や企業データの急増等を背景に、特定のテーマに特化する企業を定量的かつルールに基づいて選定する指数の開発が可能になりました。

ブラックロックは、アクティブ運用およびパッシブ運用の専門性を活かし、膨大な企業分析データを有するファクトセット社と世界有数の指数提供会社であるストックス社とともに「STOXX グローバルオートメーション アンド ロボティクス インデックス」を開発しました。そして、同指数への連動を目指す「シェアーズ オートメーション & ロボットETF」が日本で最初のロボティクス関連ETFとして誕生しました。

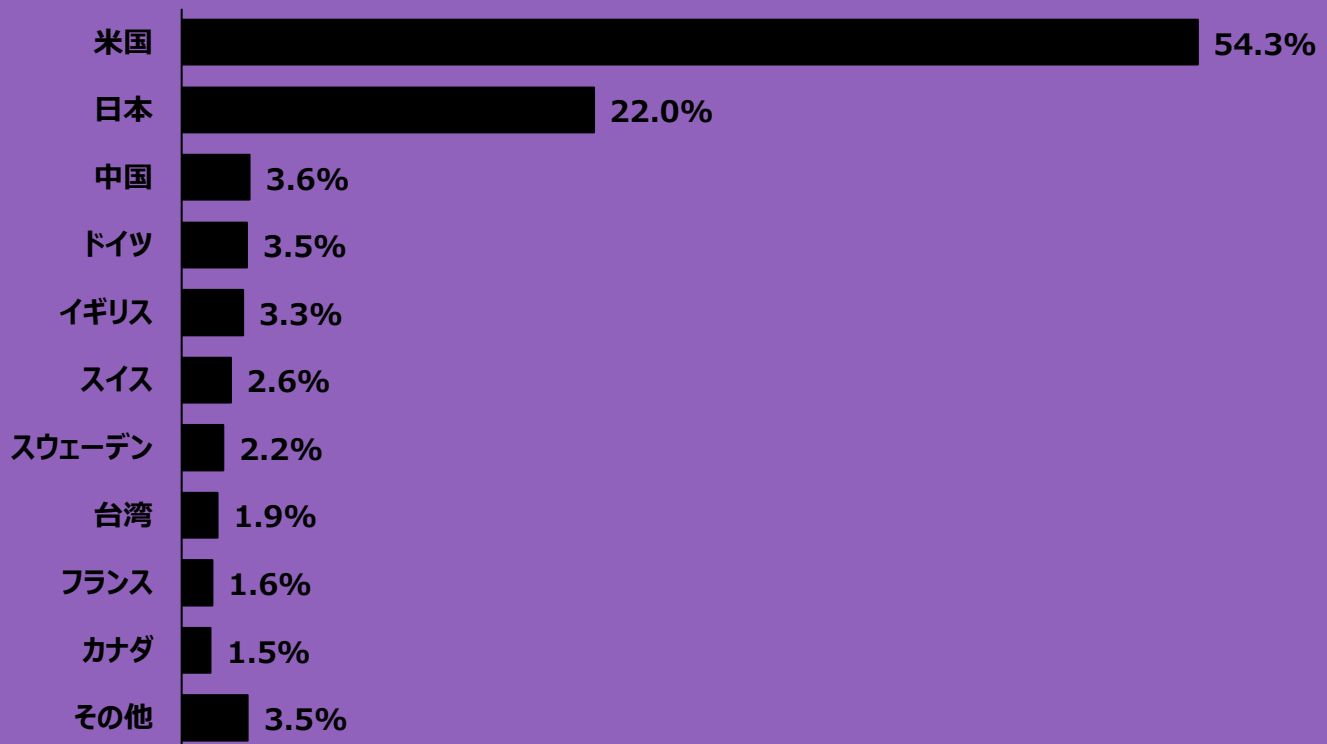
10. 浮動株：発行されている株式の中で、安定した株主に保有されておらず、市場に流通する可能性の高い株式
出所：上記の指数に関するデータは、「STOXX® INDEX METHODOLOGY GUIDE, DECEMBER 2020」をもとにブラックロック作成。

ETF投資に関する手数料・リスク等につきましては本資料巻末の留意事項を必ずお読み下さい。

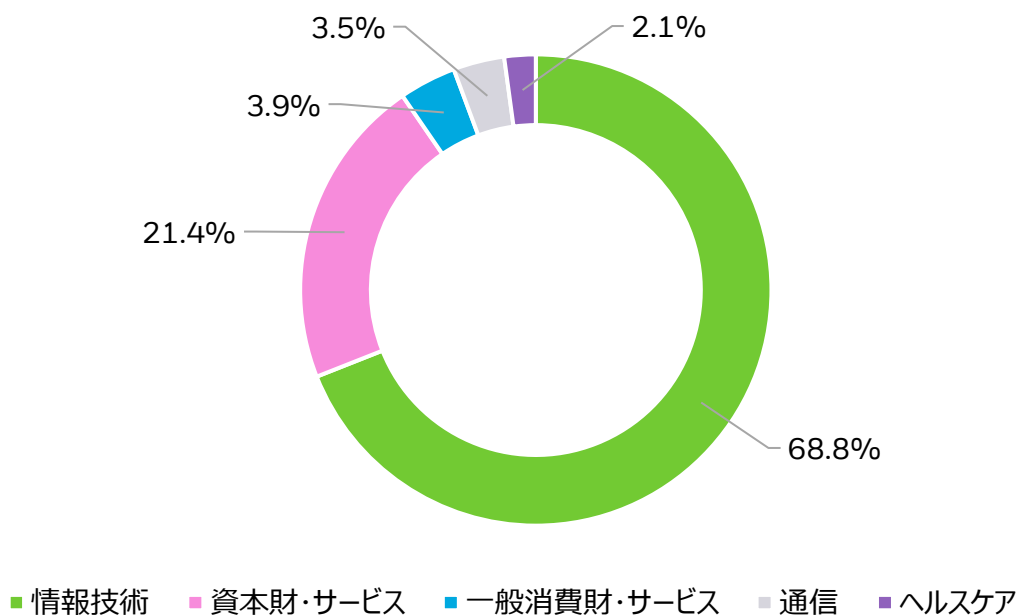
投資対象ファンドのポートフォリオの状況※

(2020年12月30日現在)

国別内訳 (%)



業種別内訳 (%)



※上記は、「iシェアーズ オートメーション & ロボット ETF」が実質的に投資対象としている「iShares Automation & Robotics UCITS ETF (RBOT)」の2020年12月30日時点の組入れ状況です。内訳は変更することがあります。国別および業種・産業別内訳は、投資対象ファンドが保有する発行体の国籍および業種・産業グループの割合を示しています。国別内訳は、場合により、発行体が主な事業を行う国を示すこともあります。業種・産業グループ別内訳はGICS基準により分類しています。

ETF投資に関する手数料・リスク等につきましては本資料巻末の留意事項を必ずお読み下さい。

投資対象ファンドの組入銘柄のご紹介

銘柄紹介	業種	国
<p>アップル (AAPL) は米国最大手のIT企業。メディアデバイス、スマートフォン、タブレット端末、PCなどのデザイン・製造・販売に従事する。主要製品はiPhone、iPad、iPod、Mac、Apple Watchで、Apple TV、iOS、iCloud、Apple Payも提供。オンライン販売と直営店Apple Storeを展開し、音楽や映画などのコンテンツやアプリも販売する。本社所在地はカリフォルニア州クパチーノ。</p>	情報技術	米国
<p>エヌビディア (NVDA) は米国大手の半導体メーカー。コンピューターグラフィックス(CG)用の半導体、グラフィック・プロセッシング・ユニット(GPU)、グラフィックチップなどのグラフィック技術を提供する。主にPC向けにグラフィックプロセッサGeForce、ワークステーション向けにQuadro、スパコン向けにTesla、モバイル向けにTegraを展開。本社所在地はカリフォルニア州サンタクララ。</p>	情報技術	米国
<p>島精機 (6222) は日本大手のニット機械メーカー。横編機、デザインシステム、手袋・靴下編機の製造に従事、国内および海外販売子会社を通じ製品を販売する。コンピュータ制御の横編機、セミジャガード横編機、アパレルCAD/CAMシステム、完全無縫製横編機などが主な製品。本社所在地は和歌山県和歌山市。</p>	資本財・サービス	日本
<p>ネメチック (NEM) はドイツ大手のソフトウェア会社。建設業界における設計・建築・管理を行うソフトウェアと、建築家、設計者、専門エンジニア向けのソリューションを提供する。入札、見積もり、設計、製図、コスト管理、契約、請求などを扱うソフトウェアが主要製品。また、映画、アニメ、広告などの視覚化ソフトウェアも展開する。本社所在地はミュンヘン。</p>	情報技術	ドイツ
<p>バルメット (VALMT) はフィンランド大手の紙パルプ・エネルギー関連企業。紙パルプ・板紙・ティッシュ・ファイバーボード製造工程およびエネルギー生産・バイオ燃料向けの技術、オートメーション、サービス提供をグローバルに展開する。また、鉱業、化学産業、食品、バイオテクノロジー、製薬業界におけるソリューションも提供。本社所在地はエスポ。</p>	資本財・サービス	フィンランド
<p>PTC (PTC) は米国のIT・ソフトウェア企業。同社事業はIoT・拡張現実(AR)ソフトウェア部門とソリューション部門から構成され、コンピュータ支援設計(CAD)、製品ライフサイクル管理(PLM)、サービスライフサイクル管理(SLM)などが主要製品。また、ソフトウェアのライセンス供与やグローバルサポートも提供する。本社所在地はマサチューセッツ州ニードハム。</p>	情報技術	米国
<p>ファナック (6954) は日本大手の電気機器メーカー。ファクトリー・オートメーションに関わる工作機械用CNCシステム、産業用ロボット、小型切削加工機、電動射出成形機、超精密ナノ加工機などの開発・製造・販売に従事、製品の保守サービスも提供する。国内および海外子会社を通じ事業を展開。本社所在地は山梨県南都留郡。</p>	資本財・サービス	日本
<p>ヘキサゴン (HEXA B) はスウェーデン大手の測定機器メーカー。計測・測量のハードウェアとソフトウェアを提供し、位置関連情報、航空機や自動車から医療機器にいたるあらゆる製造部品の検品プロセスを可視化・測定する。同社ソリューションは農業、製造業、建設、エンジニアリング、エネルギー、医療、保安、輸送業界などで利用される。本社所在地はストックホルム。</p>	情報技術	スウェーデン
<p>ラーガン・プレジジョン(大立光電) (3008) は台湾大手の光学機器メーカー。スマートフォン・タブレット・デジタルカメラ・自動車用カメラレンズ、光学レンズ、プロジェクター、スキャナー、ファインダー、顕微鏡などの設計・製造・販売に従事する。製造施設を台湾と中国に構える。また、同社製品のアフターサービスも提供する。本社所在地は台中市。</p>	情報技術	台湾
<p>ロックウェル・オートメーション (ROK) は米国大手の産業用制御機器メーカー。製品の市場投入までの時間を短縮し、操業コストを削減するためのハードウェアとソフトウェアを提供する。また、モーター制御、AC/DCドライブ、センサー、スイッチ、安全装置、プロセス自動化システムを米国内外で展開する。本社はウィスコンシン州ミルウォーキー。</p>	資本財・サービス	米国

上記は、「iシェアーズ オートメーション & ロボット ETF」が実質的に投資対象としている「iShares Automation & Robotics UCITS ETF (RBOT)」の2020年12月30日現在の組入れ銘柄の一部を例示目的で示したものであり、個別銘柄への勧誘を行うものではありません。

銘柄紹介の出所：Mergent Inc., 2020年6月30日現在

ETF投資に関する手数料・リスク等につきましては本資料巻末の留意事項を必ずお読み下さい。

iシェアーズETFについて

Q1. iシェアーズETFとは何ですか？

世界のETF市場の約34%のシェアを有するマーケットリーダーです。¹¹

iシェアーズETFの純資産残高は、約2兆3,260億米ドル（約245兆円）。世界のETF市場の約34%のシェアを有するマーケットリーダーです。株式・債券・コモディティとiシェアーズETFの資産クラスは多岐に亘り、全世界で900以上の銘柄が取引されています。日本国内では、110銘柄以上¹²が提供されています。

Q2. iシェアーズETFは、どこで買えますか？

株式と同様、証券会社・取引所を通じて売買できます。

iシェアーズETFは、上場企業の株式と同様に証券取引所で取引されます。証券取引所の取引時間内であればいつでも売買可能で、株式と同じように、成行注文・指値注文などができます。

東京証券取引所に上場しているiシェアーズETFは、基本的に全国の金融商品取引業者（証券会社）で国内株式と同様のお取引が可能です。また、信用取引も可能です。海外の証券取引所に上場しているiシェアーズETFは、外国株式と同様の取引方法・手数料で、外貨で取引できます。¹³

Q3. iシェアーズETFは、分配金がありますか？

一部のiシェアーズETFを除いて、基本的に分配金が支払われます。

分配金は、各iシェアーズETFの権利確定日に、iシェアーズETFの受益証券（会社型の場合は投資証券）を保有している投資家に対して支払われます。受領方法については、お取引のある金融商品取引業者（証券会社）にお問合せください。分配頻度は、個々のiシェアーズETFにより異なります。なお、コモディティを投資対象とするiシェアーズETFについては、投資対象のコモディティに配当の概念がないため、原則として分配金の支払いはありません。

Q4. iシェアーズETFは、NISAが適用されますか？

東京証券取引所に上場しているiシェアーズETFは、ご利用いただけます。

東京証券取引所に上場しているiシェアーズETFはNISA口座を通じてのお取引が可能です。いずれのiシェアーズETFも売買単位が1口で、比較的少額からのお取引が可能です。

海外の証券取引所に上場しているiシェアーズETFは、外国株としての取扱いになるため、NISA口座でのお取引の可否は金融商品取引業者（証券会社）によって異なります。詳しくはNISA口座をお持ちの金融商品取引業者（証券会社）にお問合せください。

Q5. iシェアーズETFの情報は、どこで入手できますか？

当社ウェブサイトでご確認いただけます。

ブラックロックのウェブサイトでご確認いただけます。検索ウィンドウにETFの銘柄コードをご入力いただくか、トップページから「ファンド・ETP情報」>>「東証上場iシェアーズETF」もしくは「全iシェアーズETF」をクリックしてください。

Q6. iシェアーズETFを運用しているブラックロックとはどんな会社ですか？

ブラックロックは、運用資産残高約7.81兆ドル¹⁴(約824兆円)を持つ世界最大¹⁴の独立系資産運用グループです。

ブラックロックの使命は、お客様のより良い将来に向けた経済的基盤を創造することです。お客様の資金を預かり運用するフィデューシャリーとして、お客様の目標実現に必要な運用およびテクノロジー・ソリューションを提供しています。

11. 出所：BlackRock Investment Institute調べ、2020年9月30日現在、円換算レート：1米ドル＝105.53円

12. 2020年12月30日現在、国内籍ETFおよび海外籍ETFの合計。

13. 金融商品取引業者（証券会社）によって取引手法の選択肢は異なる場合があります。詳しくは金融商品取引業者（証券会社）にお問合せください。

14. 2020年9月30日現在、円換算レート：1米ドル＝105.53円。出所：The world's largest 500 asset managers | Joint study with Pensions & Investments | October 2020、グローバルの運用資産残高ベース

重要事項

当資料は、当ファンドの特色や投資対象、リスク要因および留意点についてご理解を深めていただく目的でブラックロック・ジャパン株式会社が作成した販売用資料です。当ファンドは、預貯金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また販売会社が登録金融機関の場合、投資者保護基金の対象にはなりません。

iシェアーズETFへの投資による損益はすべて投資家の皆様に帰属します。投資をご検討される際は、取扱い金融商品取引業者にて交付される契約締結前書面等を十分に確認の上、ご自身でご判断下さい。本資料は信頼できると判断した資料・データ等に基づき作成していますが、その正確性および完全性について保証するものではありません。また、将来の投資成果を保証・約束するものではなく、その内容は将来予告なく変更されることがあります。

当ファンドにかかるリスクについて

基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組入れられている有価証券の値動きの他、為替変動による影響を受けます。これらの信託財産の運用により生じた損益はすべて投資者の皆様に帰属します。したがって、当ファンドは元金および元金からの収益の確保が保証されているものではなく、基準価額の下落により投資者は損失を被り、元金を割り込むことがあります。主なリスクは以下の通りです。

■ 株価変動リスク

世界各国の株式に投資します。したがって、経済および株式市場動向または株式の発行会社の経営・財務状況等に応じて組入株式の株価および配当金変動し、当ファンドの運用成果に影響を与えます。

■ 特定業種への投資リスク

ロボティクスおよびオートメーション技術関連の企業の株式を主要投資対象とします。特定業種への集中投資を行なうため、特定業種の動向の影響を大きく受け、結果として基準価額の値動きが大きくなる場合があります。さらに、業界の動向や関連する法的規制等の変更に伴い、投資銘柄が影響を受け、結果として当ファンドの運用成果に影響を与える場合があります。

■ カントリー・リスク

投資先の国の政治・経済事情、通貨・資本規制等の要因により、株価が変動することがあり、それに伴い当ファンドの運用成果に影響を与えます。また、エマージング諸国の経済は、先進諸国に比べて不安定であり、その株式市場を取り巻く社会的・経済的環境はより不透明な場合が多く、エマージング諸国の政府は自国経済を規制または監督するうえで大きな影響力を行使することがあります。したがって、エマージング諸国の株式は、投資先の国の政治・経済事情、通貨・資本規制等の要因により、より大幅に株価が変動することが考えられます。

■ 為替変動リスク

主として外貨建資産に投資します。原則、外貨建資産に対して為替ヘッジを行いません。為替レートの変動が当ファンドの運用成果に影響を与えます。

■ デリバティブ取引のリスク

デリバティブ取引を用いた結果、コストとリスクが伴い、当ファンドの運用成果に影響を与えます。また、デリバティブ取引は必ず用いられるわけではなく、用いられたとしても本来の目的を達成できる保証はありません。

■ 有価証券の貸付等におけるリスク

有価証券の貸付等において、取引先リスク（取引の相手方の倒産等により契約が不履行になる危険のこと）が生じる可能性があり、損失を被ることがあります。

■ 上場投資信託証券への投資に関する留意点

金融商品取引所等に上場している投資信託証券（上場投資信託証券）を購入あるいは売却しようとする際に、市場の急変等により流動性が下し、購入もしくは売却が困難または不可能になる場合があります。加えて、取引価格と基準価額の乖離が広がる場合があります。また、投資する上場投資信託証券の選定および投資比率の決定においては、当ファンドのベンチマークとの相関性等を考慮しますが、当ファンドと投資する上場投資信託証券の投資方針または投資対象は完全に一致するとは限らず、当該上場投資信託証券の投資目

的が必ず達成されるという保証もありません。

これらの要因は当ファンドにトラッキング・エラーを生じさせる可能性があります。また、当ファンドは特定の上場投資信託証券に集中的に投資することがあり、この場合には、当該上場投資信託証券の価格変動リスクや運営上のリスク（当該上場投資信託証券の償還や上場廃止等）の影響をほぼ直接に受けることが想定されます。

その他の留意点

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。

収益分配金に関する留意点

分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

手数料、費用等について

【取引所における売買時の手数料】iシェアーズETFを売買する際の手数料は取扱い金融商品取引業者（証券会社）等によって定められます。詳しくは取扱会社までお問い合わせください。

【信託財産を通じて間接的に支払われる費用】

<信託報酬> ファンドの実質的な信託報酬（運用管理費用）は、年0.528%（税抜0.48%）程度となります。投資するETFの投資比率や報酬率が変わる可能性があり、実質的な負担については変動することがあります。

<その他の費用・手数料>

上場に係る費用、対象指数の商標の使用料について、ファンドの純資産総額の年0.033%（税抜0.03%）を上限として、日々計上され、毎計算期末または信託終了のときファンドから支払うことができます。ファンドの諸経費、売買委託手数料、外貨建資産の保管費用等は、その都度もしくは日々計上され、その都度もしくは毎計算期末または信託終了のとき、ファンドから支払われます。投資するETFに係る保管報酬、事務処理に要する諸費用等が当該ETFにおいて支払われます。有価証券の貸付を行なった場合はその都度、信託財産の収益となる品貸料の2分の1相当額以内が報酬としてファンドから運用の委託先等に支払われます。※その他の費用・手数料については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。

iシェアーズETFの保有期間中は運用管理費用等を間接的にご負担いただきます。保有時の費用の率（信託報酬）は個別のETF毎によって異なり、また運用状況や保有期間等に応じて異なることからその上限額を示すことはできません。詳細は取扱い金融商品取引業者（証券会社）にてご確認ください。またiシェアーズETFのウェブサイト（www.blackrock.com/jp/ishares）にて当ETFに関する情報を開示しております。

著作権について

本資料の著作権は、ブラックロック・ジャパン株式会社に帰属し、全部又は一部分であってもこれを複製・転用することは社内用、社外用を問わず許諾されていません。

本資料で言及されている指数の著作権その他一切の知的財産権は、指数毎の提供会社に帰属します。指数提供会社は、iシェアーズETFのいずれに関しても出資、保証、発行、販売、または販売促進を行うものではなく、またiシェアーズETFへの投資の妥当性についていかなる表明も行いません。ブラックロックは上記の指数提供会社の関連会社ではありません。

©2021 BlackRock Japan Co., Ltd. All rights reserved. iShares® (iシェアーズ®)およびBlackRock® (ブラックロック®)はブラックロック・インクおよび米国その他の地域におけるその子会社の登録商標です。他のすべての商標、サービスマーク、または登録商標はそれぞれの所有者に帰属します。iシェアーズ®は、ブラックロック・グループが運用を行うETF（上場投資信託）ブランドであり、ブラックロック・インクおよび米国その他の地域におけるその子会社の登録商標です。

※投資資料は、取引所で売買を行う投資家を対象に想定して作成しています。詳細な情報は、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

ブラックロック・ジャパン株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第375号

加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ウェブサイト www.blackrock.com/jp/

〒100-8217 東京都千代田区丸の内一丁目8番3号 丸の内トラストタワー本館

ETF事業部 TEL 03-6703-4110（部代表） www.blackrock.com/jp/ishares/